

慶應義塾大学教授 土居 丈朗

今月、国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しの改訂版を公表した。今年の世界経済の実質成長率を、1月の見通しの3・5%から3・3%に下方修正して注目された。日本の実質成長率は、1・1%から1・0%に下方修正されたが、2018年の0・8%より高い水準という見通しである。

実質成長率は、実質国内総生産（GDP）の増加率である。GDPは、近年勃興するネットを介したサービスが適切に反映されていないのではないかとの疑問に答えるのは、早稲田大学顧問の野口悠紀雄氏（週刊ダイヤモンド4月27日・5月4日号）である。市場で明示的な対価の支払いなしに行われている経済活動は昔からあり、農家の自宅消費や持ち家の帰属家賃が代表例だ。ネットで無料配信されるサービスも、生産側は、収入を情報の受け手からではなく、広告の出し手などから得て成り立せている。広告の出し手の支払いが把握できれば、無料の放送サービスは広告サービスの生産者として捉え、GDPに反映される。

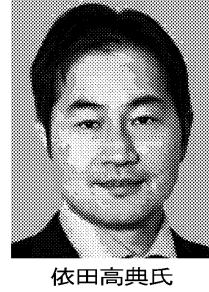
GDPは、国ごとの様々な厚生指標（平均寿命、健康、主觀的な幸福度など）と相関し、不完全だが良い代理変数になっている（指摘するのは、米ジヨージタウン大学教授の向山敏彦氏（4月2日付経済教室）である。GDPの拡大には、生産要素の労働と資本が増えるだけでなく、生産性の修正して注目された。日本の実質成長率は、1・1%から1・0%に下方修正されたが、2018年の0・8%より高い水準という見通しである。実質成長率は、実質国内総生産（GDP）の増加率である。GDPは、近年勃興するネットを介したサービスが適切に反映されていないのではないかとの疑問に答えるのは、早稲田大学顧問の野口悠紀雄氏（週刊ダイヤモンド4月27日・5月4日号）である。市場で明示的な対価の支払いなしに行われている経済活動は昔からあり、農家の自宅消費や持ち家の帰属家賃が代表例だ。ネットで無料配信されるサービスも、生産側は、収入を情報の受け手からではなく、広告の出し手などから得て成り立せている。広告の出し手の支払いが把握できれば、無料の放送サービスは広告サービスの生産者として捉え、GDPに反映される。



野口悠紀雄氏



ディートン氏



依田高典氏



稲水伸行氏

GDPと経済の実態巡り議論

データ分析の効果と限界

IT（情報技術）の発達により、ビッグデータが積極的に活用されるようになり、AI（人工知能）が分析に投入されている。米プリンストン大学名誉教授のアンガス・ディートン氏（週刊東洋経済4月6日号）は、理論を積極的に学ばず、データで理論を代替する人たちが出ており、それは間違いだと警鐘を鳴らす。

また、ポピュリズム政権が台頭し、公的統計が政治的な介入によって操作される懸念が高まっていると憂慮する。人々は、データは何かとも純粹

なものだが政治は純粹でないと考えていい。しかし、歴史を振り返れば、すべてのデータ収集は政治的などの見方は慧眼である。「データ＝政治」という認識の下、何の目的で何のデータを収集するのかを決めたり、統計法で調査方法やデータ加工のルールを定めたう認識の下、何の目的で何のデータを収集するのかを決めたり、統計法で調査方法やデータ加工のルールを定めたう認識の下、何の目的で何のデータを

りしてきただのが民主主義の歴史であり、クロスチェックを行うなど、懷疑的な姿勢が常に必要と主張する。人々の行動変容をあぶり出せるのも、適切なデータ分析のたまものだ。

京都大学教授の依田高典氏（週刊東洋

巨大IT企業の功罪問う

（ひとたび市場を独占した企業は将来代替財を供給する可能性のある企業を買収して独占を維持し続ける）、買

手独占（買い手として市場支配力を行使し、価格を低く、取引量を少なくとどめる）、サングコスト（市場に参入するための投下費用のうち退出時に取り返せない費用）の意図的な生成、他のプラットフォームの競争で、抹殺買収

（巨大ネット企業による独占に対し、競争政策上何らかの新たな規制を設けた）、東京経済大学准教授の黒田敏史氏（経済セミナー4・5月号）は、巨大ネット企業に対する政府の規制の要否について学界の議論を整理している。特にプラットフォームの競争で、抹殺買収

（巨大ネット企業による独占に対し、競争政策上何らかの新たな規制を設けた）、東京経済大学准教授の黒田敏史氏（経

済セミナー4・5月号）は、巨大ネット企業に対する政府の規制の要否について学界の議論を整理している。特に

（巨大ネット企業による独占に対し、競争政策上何らかの新たな規制を設けた）、東京経済大学准教授の黒田敏史氏（経

済セミナー4・5月号）は、巨大ネット企

業に対する政府の規制の要否について学界の議論を整理している。特に

（巨大ネット企業による独